

きょうみをもったことをしょうかいしよう

「せっちゃくざいの今と昔」

3年1組

1 単元の目標と評価規準

目標：目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができる。

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。	①「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。 ②「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。	①すすんで文章を要約し、学習の見通しをもって、まとめたことを伝え合おうとしている。

2 教材について

おわり	中									はじめ
	中③		中②					中①		
⑪	⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①
結論	事例②	事例①	工場で作った接着剤	欠点	事例②	事例①	自然の材料の接着剤	事例②	事例①	話題提示
それぞれのせつちやくざいのとくちように合わせた使い方をすることで、くらしをゆたかにしている。	昔の絵など、美術品の修理には、昔からある米や小麦から作ったのりや、にかわが活躍する。	自然にある物のよさを生かし、トウモロコシやジャガイモから作るのりは、じょうざいを作る時に使われる。	今、使っているせつちやくざいは、ほとんどが工場で作られたものだ。	これらはくさりやすかったり、さむいときちんとくつつかなかったりする点が不便である。	「にかわ」は、動物のほねや皮をにたしるを、かわかしてかためて作る。	たいた米をへらでつぶし、水を合わせてよくねっていくとのりができあがる。	昔から自然にあるざいりようを使って、せつちやくざいを作ってきた。	飛行機や電車などを作るときは、ねじなどのかわりにせつちやくざいを使うことで軽くすることができている。	体その服のゼッケンは、ねつでとけるせつちやくざいがつかわれている。	物と物をくつつけるはたらきをするものをせつちやくざいという。

本教材は、接着剤の用途や今と昔の違いなど様々な観点から接着剤について知ることができるものである。

児童が自分が興味をもったことを紹介するために大事な語や文を見付けて要約することに適した教材文である。

3 単元計画(全7時間)

次	時	学習目標	学習活動
第一次	1	身の回りの接着剤に目を向け、単元の学習の見通しをもつ。	○昔の接着剤の原料を見せる。 ○のりを使った経験や、接着剤が身の回りではどのように使われているかを想起させる。
第二次	2	文章の構成を捉えて、5つのまとまりに分けることができる。	○教材文を「はじめ、中、終わり」の3つのまとまりに分け、さらに「中」3つのまとまりに分け、書かれている内容を確認する。
	3	大事な言葉を見付け、「中①」に書かれている内容を表に整理する。	○「中①」に書かれていることを表に整理する。 ○大事な言葉や文と事例との関係で「中①」をまとめる。
	4 (2組本時)	【展開1】中心文やキーワードに着目し要約のポイントを理解する。 【展開2】自分が入れたいキーワードを決め、要約文を書くことができる。	○2段落の中心文やキーワードを見付け、言葉の並び替えや付け足し、書き換え、そして要約する。 ○要約するためのポイントを理解する。 ○2段落で理解した要約のポイントを踏まえ、中心文と自分で選んだキーワードを使い、3段落を要約する。
	5	大事な言葉を見付け、「中②」に書かれている内容を表に整理する。	○「中②」に書かれていることを表に整理する。 ○大事な言葉や文と事例との関係で「中②」をまとめる
	6 (1組本時)	【展開1】自分が興味をもったことの中心が伝わるように、要約することができる。 【展開2】要約文を読み合って、共通点や相違点を見付ける。	○「中②」の5段落、6段落から自分が興味をもった段落を選び、伝えたいことの中心が伝わるように、大事な言葉や文を使って要約をする。 ○同じ段落を選んだ児童と小グループをつくり、要約する際に、工夫したことを伝え合い、良いところや一人一人の感じ方の違いを見付ける。
	7	中③の要約文を書く。 筆者の考えについて、自分の考えをもち、友達と交流する。	○中③の9段落、10段落を要約する ○11段落について、自分の考えをまとめ、意見交換する。

4 全力参加のための手立て

学びマップの活用

単元の流れや学習のゴールを示すことで、児童が見通しをもち安心して進めることができる。

→学習の見通し

ペア活動

全員が意見を話す機会をつくる。自分の意見をもてない児童にも聞いて学ぶ場を設定する。

ダウト読み・並び替え

着目させたい言葉や文を意図的に置き換えた文章を提示し、正しい文章を考えさせる。

→内容理解

5 本時の展開(全7時間中の第6時)

本時の目標:自分が興味をもったことの中心が伝わるように、大事な言葉や文を使って要約をすることができる。

時間	学習活動	・指導上の工夫 ▲個別の支援	評価規準 (評価方法)
導入 2分	1 本時のめあてを確認する。 せっちゃくざいについてきょうみをもった内容を要約文で伝えよう。	・学びマップで確認。	
展開Ⅰ 25分 内容 理解	3 ⑤～⑥段落を音読し、それぞれの文の誤りを探す。 仕掛け ダウト読み 4 大事な言葉や文を、前時にまとめた表から確かめる。 5 要約する際のポイントを確認する。 6. 2つの事例(⑤⑥段落)で伝えたい中心は何かを考える。 T:興味をもった事例にネームプレートを貼りましょう。 7.興味をもった事例を要約する。 ・中心文と大事な言葉を組み合わせる。 ・90文字以内に要約する。	・キーワードとなる語句を意図的に置き換える。【焦点化】 ・中②の言葉や文をまとめた表(段落別)を提示する。【視覚化】 【焦点化】 ・伝えたいことを中心に大事な文や言葉を入れる。 ・短く(90文字以内・2文以上) ・言葉を変えてもよい 書き換え・付け足し ・⑤、⑥段落にネームプレートを貼らせる。 【焦点化】【ネームプレート】 ・段落の中心文を見付けさせる ・中①で要約した文を提示し、要約するときの参考にさせる。 【視覚化】 ▲机間指導をしながら、なかなか書けない児童に対しては、表の言葉を基に組み立てるよう言葉掛けを行う。	 読みたい  考えたい 自分が興味をもったことの中心が伝わるように、大事な言葉や文を使って要約を書くことができる。(ワークシート)

展開2 15分 交流	8 小グループで要約した文章を読み合い、工夫したところや共通点や相違点を交流する。 T.同じところにネームプレートを貼った人と3人グループになり、要約した文を伝えましょう T.要約文を読んで、自分と同じところ、違うところを見付けてみましょう。 9 全体で交流する。 【共有化】 T.自分が興味をもった事例の要約を発表しましょう。	・興味をもった事例が同じ人同士3人グループで交流する。 【共有化】 ・表にまとめたキーワードが書いてある文かを検討させる。 【焦点化】 ・様々な考えに触れることで、一人一人の感じ方の違いを見付けることができるよう、意図的な指名も取り入れる。	 伝えたい
まとめ 3分	8 学びマップで今日の学習を振り返る。	【共有化】	

6 板書計画

せつちやくざいの今と昔
 せつちやくざいについてきょうみをもったことがつたわるように要約しよう。

要約：文章の内ようを短くまとめる
 ●要約のしかた
 ①中心文を見つける
 ②自分の言葉で書きかえたり、おぎなったりする。
 ③九十文字以内におさめる。

中②の本文
事例①？

中②の要約文
事例②？

ネームプレート

ネームプレート

事例①の大事な言葉・大事な文をまとめた表

事例②の大事な言葉・大事な文をまとめた表

●要約文
 ・米から作るのりは、ふうとうのふたをとじたり、しょうじをはりかえたりするのにつかっていた。
 ・動物の骨からつくるにかわは、家具や楽器を作る時や、絵の具を作る時につかわれていた。

7 授業観察の視点

- (1) 本時のねらいが達成されていたか。そのための指導法が考えられていたか。
- (2) 児童が全力参加する姿が見られていたか。
- (3) 分かりやすく、考えを深めたり広げたりするために有効な発問であったか。